なら羅針盤

奈良

西ノ京駅かいわい（奈良市）

奥深い魅力的な町

すっきり ワイドに 地域面

深まる秋を感じ散策

鑑真没後1250年にあたる唐招提寺と、東塔の約110年ぶりの解体修理で61年ぶりに水煙を展示している薬師寺。両寺に最寄りの近鉄西ノ京駅は2012年3月から一部の急行、特急が平日も停車し、今春から奈良市が期間限定の臨時観光案内所を設置している。秋が深まり、観光客が増えるこの時期に、駅周辺を散策した。【鶴見泰寿】

線路沿いを歩くと「墨の資料館」があった。1805年創業で、書道用品製造の老舗「墨運堂」が工場改修などに伴い、「墨作りを知ってほしい」と1994年に開館。中国、台湾、韓国で作られた墨や、戦前の日本の墨を陳列。ガラス越しに、職人の技を見学できる。

墨を作って11年の松田英治さん(38)が、型入れ前の棒状の墨を手渡してくれた。グミのような弾力があり、固く乾燥した墨しか触れたことがない私には新鮮だった。指に黒い煤がついた。松田さんは「煤、膠（にかわ）、（煤を取る）灯火（ともび）の太さでも質は変わる」と、奥深さの一端を語った。

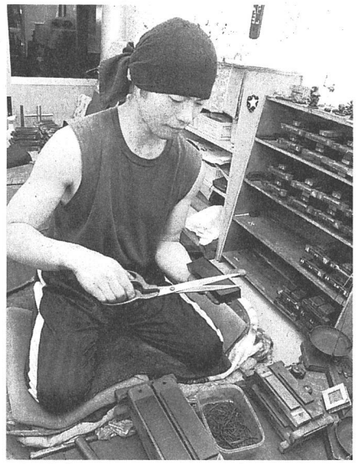
墨運堂9代目の松井重憲会長(74)は「秋からが墨作りに適している」。膠は18度以下で適度に固まり、質の高い墨になるという。館内では、できたての柔らかい墨を扱う「にぎり墨体験」（3150円）ができる。

資料館から近くの住宅街を散策すると、「あす香」の看板が立っていた。住宅の一階に12年7月に開いた。玄米食と旬の野菜・果物にこだわったお店で、大阪市北区から移転したという。

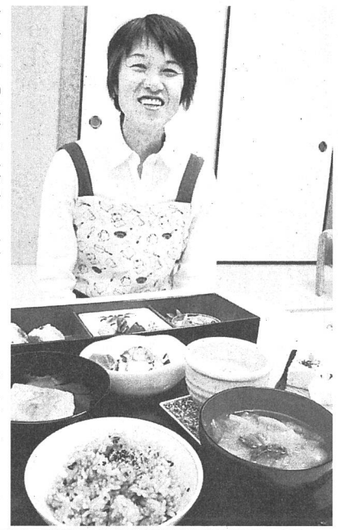
店主の藤本一子さん(51)は約20年前、父親の病気をきっかけに玄米など自然食に関心を持った。砂糖や化学調味料は一切使わず、甘みは塩で引き出す。揚げ物にはごま油を使用。約20種類の食材を使ったランチ（2500円）、夜の会席（4000円）があり、ボリュームがある。仕入れにより献立は変わるが、温かいごま豆腐が人気の一品という。各地の菜食ファンのほか、口コミで奈良の人も通い始めている。「本来の野菜の味を知ったと言ってくれ励みになる」と藤本さん。2日前までに要予約。

住宅街から養天満神社前の踏切を渡ると、隠れ家のようにたたずむ「西ノ京 はぎれ工房」を見つけた。1998年にオープン。観光シーズンの3～6月、9～12月中旬のみ営業だ。着物の古布をリメイクした商品は全て手作り。主婦を中心にしたスタッフ約30人と、店主の東はつよさん（64）が手提げかばん、巾着のほか、フクロウ、カエル、かかしなどぬいぐるみを手がける。値段は1000～8000円。「昔母親が作ってくれたようなものを」と、遊び心と温もりにあふれ、北海道から沖縄まで固定客がいると東さん。

薬師寺の沿道から秋篠川をさらに進むと、かやぶき屋根のレストラン「草ノ戸」が見えてきた。吉田望支配人(46)によると、近隣の古民家を移築し、内装を整えて73年に開店。皇族も来店したという。旬のキノコ類や刺身など約25種類の食材を用いた「けんずい」（2625円）が定番。菱の実、ミョウガ、アロエなど滋養となる薬草料理（4200円）は前日の予約が必要。吉田英徳料理長(49)は「食卓では見ない季節の食材を提供している」と胸を張った。


来館者の前で、型抜きした墨の形を整える墨運堂の松田英治さん

草ノ戸の吉田望支配人と「けんずい」


「花粉症、アトピーの人にも安心して食べてもらっています」と話す、「あす香」の藤本一子さん

所狭しと小物やバッグが並べられた店内で「気軽に立ち寄って」と話す「西ノ京 はぎれ工房」の東はつよさん（左）ら

メモ

①墨の資料館
（奈良市六条1の5の35、0742・41・7155）
②あす香
（奈良市五条2の17の28の4、0742・43・1118）
③西ノ京はぎれ工房「布細工」
（奈良市五条町18の2、090・9695・9955）
④草ノ戸
（奈良市六条町151、0742・33・3017）

NEWS NAVIGATOR

ご当地ナンバーって何？

橿原など4市町村「飛鳥」要望

賛同自治体増えず導入断念

なるほドリ　ご当地ナンバー「飛鳥」の導入を断念したと記事で読んだけど、そもそもご当地ナンバーって何なの？

記者　車のナンバーには「奈良」と地名がついていますよね。ご当地ナンバーは地域が選んだ名称にできます。走る広告塔というわけです。国が募集した時に、基準を満たした上で要望する必要があります。

Q　基準って何？

A　原則、複数の市町村で構成された地域で、域内の登録自動車数が10万台を超えていることです。また、地域振興や観光振興が目的なので、ご当地ナンバーをどう活用するかも問われます。

Q　「飛鳥」はどうして断念したの？

A　導入を要望したのは▽橿原市▽明日香村▽高取町▽吉野町――の4市町村です。6月末に一度要望したのですが、登録自動車数が足りず、見送られていました。国交省によると、橿原市側が「（参加自治体が増える）めどがある」と説明したこともあり、10月末まで再申請が認められたのですが、賛同する自治体は増えませんでした。

Q　他の自治体はなぜ賛同しなかったの？

A　寺田典弘・田原本町長は地域や観光の振興に理解を示すも、町ホームページに「一つにまとまれる総称があれば良い。しかしこの地域で歴史の観点を切り口にするのは難しい。奈良にはあまりにも多くの歴史がありすぎる」と載せていました。地元商工団体のメンバーが発案したのですが、「大和」など複数の候補から「飛鳥」に落ち着くまで白熱した議論がありました。最初から議論の過程を中南和の首長や市民で共有していれば、まとまったかもしれません。ご当地ナンバーを要望した他の自治体の中には、国が募集を始めた2月以前から準備していたところもあり、「飛鳥ナンバー」は議論不足の状態で見切り発車した感じがします。市民向けの説明も少なく、「性急だった」と話す自治体職員もいました。

Q　努力は無駄になってしまったの？

A　松井正剛・桜井市長は「賛同するかを市民と真剣に悩み、市の歴史や施策を見直せた。連携を進めるきっかけにしたい」と話していました。独自施策よりも、結果や効率の良い連携施策が生まれれば、無駄でなかったことになると思います。

回答・矢追健介（奈良支局）

あなたの質問をお寄せください　〒630-8114（住所不要）毎日新聞奈良支局「質問なるほドリ」係（o.nara@mainichi.co.jp）

このページにご意見、情報をお寄せください。毎日新聞奈良支局　ファクス 0742・34・5020　Eメール o.nara@mainichi.co.jp